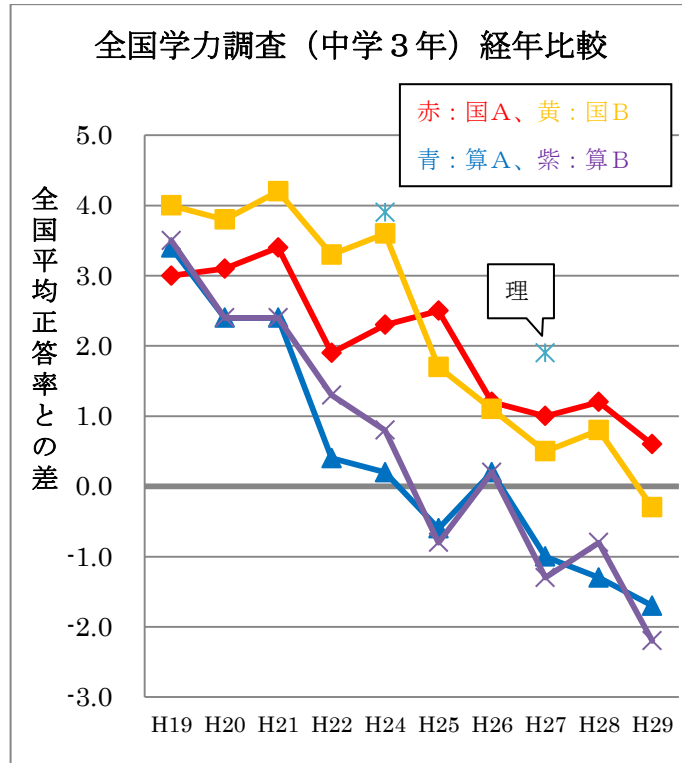
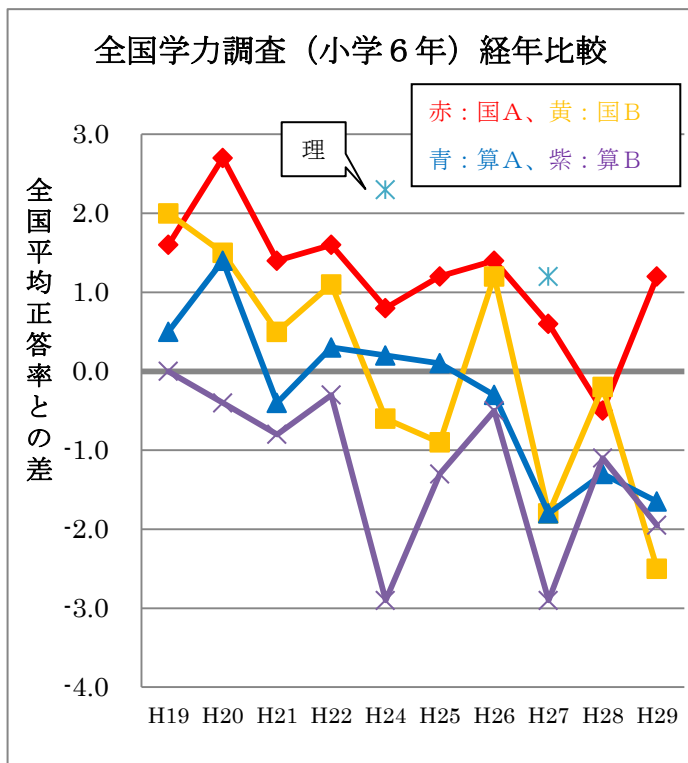


# 確かな学力の育成について

## 1 平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析から

### (1) 学力調査より

※ 平均正答率について、全国の値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は今年度から整数値で示されていることから、グラフのH29の値は全国との差の範囲の midpoint としています。



- 小学校、中学校ともに国語のA問題については全国平均を上回り、中学校国語B問題については、全国平均とほぼ同程度。
- ▲ 算数・数学についてはA問題、B問題ともに全国平均を大きく下回り、その差は過去最大。

### つまずきの多かった問題

#### 小学校算数A問題 ②

次の計算をしましょう。

(2)  $10.3 + 4$       正答 14.3

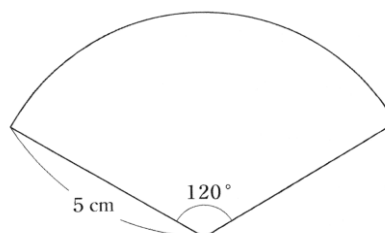
10.7と解答している児童は19.0%  
(全国14.9%)。

(3)  $6 + 0.5 \times 2$       正答 7

13と解答している児童は21.2%  
(全国17.3%)。

#### 中学校数学A問題 ④

(3) 半径が5cm、中心角が $120^\circ$ のおうぎ形の弧の長さを求めなさい。ただし、円周率は $\pi$ とします。



正答  $\frac{10}{3}\pi$  cm

正答率 25.8% (全国30.7%)  
無解答率 21.1% (全国19.7%)  
5人に1人が問題に取り組めていない状況。

## (2) 学習状況調査より

項目	小学校		中学校	
	山形県	全国	山形県	全国
1 読書への興味	78.5	74.3	71.0	69.9
2 家庭学習 (2h以上)	17.0	27.1	27.6	35.4
(1h以上2h未満)	55.9	37.3	44.5	34.2
(30分未満)	4.1	11.3	8.4	13.2
3 携帯・ スマートフォンなし	49.5	36.7	21.8	16.1
4 TV視聴時間 (2h以上)	58.7	55.7	49.5	49.1
5 TVゲーム等時間 (2h以上)	28.3	31.1	34.2	37.6

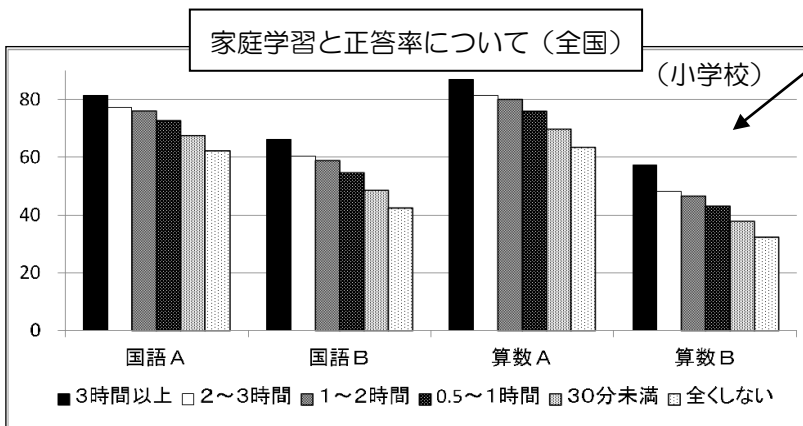
### ▲ 家庭学習

- 30分未満の割合が低いことから、本県のほとんどの児童生徒は取り組んでいるが、2時間以上取り組んでいる児童生徒は少ない。

### ▲ TV視聴時間

- 本県は2時間以上TVを視聴する児童生徒が多い。

- 全国的な傾向として、家庭学習の時間が長い児童生徒の方が正答率は高い。



### 家庭との連携・協力による

- ☆ 望ましい生活リズムの確立
  - ☆ 家庭学習の内容充実
- の促進

## (3) 調査結果を踏まえて

### <全国学力・学習状況調査を活かした取組み>

- アクションプラン改定による具体的な学力向上策の策定
  - ・ つまずきに視点をあてた全学年、全教科による具体的な取組み
  - ・ 学校と教育委員会によるつまずき解消状況の共有
- 「自校評価診断シート」等を活用した詳細な分析
- 県独自教材の開発と提供
  - ・ つまずき発見問題集 (新規)、スパイス問題シート 等

### <家庭・地域との連携による日常的な取組み>

- 生活リズムの確立や家庭学習時間の確保
  - ・ 「ノーゲームデー」等の推奨
- 児童生徒の興味・関心・意欲を高め、主体的に家庭学習に取り組む工夫
  - ・ 各学校における家庭学習の手引きや宿題の工夫
  - ・ 授業の終末における学習事項の確認復習内容の明示など、振り返りの徹底

## 2 継続的に取り組む重点施策

### 重点1 「探究型学習」の研究・実践、改善、普及・促進

- ① 推進協力校における授業実践・公開授業研究会
  - ・推進協力校：小学校9校、中学校9校、計18校
- ② 県教育センターにおける実践研究
- ③ 山形県学力等調査の実施（H29から全国学力学習状況調査と同日実施）
  - ・小5、中2を対象に合教科型、総合型の問題を出題

### 重点2 教員の指導力の向上、「探究型学習」を推進する中核となる人材の育成

- ① 「教育マイスター」の配置
  - ・退職教員マイスターによる示範授業、OJTへの支援（小）
  - ・中堅教員等を教育マイスターとして育成、授業改善、OJTを充実（小中）
- ② 県内外の研修による校内OJTの充実
  - ・マイスター育成研修、教育事務所におけるグループ研修、視察型研修、滞在型研修

### 重点3 各学校における組織的なマネジメント力の強化

- ① カリキュラム・マネジメントにより、組織として力を発揮
  - ・「探究型学習」を各教科等で行うための教育課程の編成
  - ・校内における研修体制の整備、PDCAサイクルの確立を促進
- ② 校長・教頭のリーダーシップの強化
  - ・各教育事務所における研修会の実施（文科省・大学職員や現職校長による講演等）